

なにやってんだよ!

ネットワーク管理者・池田の

第5回 メールは改行しながら書かしかない?

引用されたメールなどで1行の途中、それも引用マークの直後で改行されてしまっていて、たいへん読みにくいメールを受け取ったことはないだろうか?

送った人、つまり文書を作成した人もわざわざそんな読みにくいフォーマットで書いたりしているわけではないことは簡単に分かる。それでは、どこでこうなってしまうのだろうか?

犯人はメールソフトだ!

今日のインターネットでのメールは、次の4つの機能に分割できる。

- ① ユーザーとのインターフェイスを担当するユーザーエージェント(「Eudora」などのメールソフトウェア)
- ② メールを転送するトランスポートエージェント(いわゆるSMTPサーバーで「sendmail」など)
- ③ メールを保管するメールサーバー(これもSMTPサーバー)
- ④ メールを表示するユーザーエージェント(①と同じソフトウェア)

ユーザーがわざわざ読みにくいフォーマットで書いていないとすれば、この4つのうちのどこかで改行されているはずだ。実際に異なるユーザーエージェントで同じ宛先に送ると、改行されたりされなかったりする点から、改行している犯人は①であることが分かる。

メールを編集している間に見えている文章と、実際に送り出した文章が異なる場合があるというのがそもそもの間違いと言えるが、インターネットのメールは、太古の昔から1行の長さ制限があり、日本語を送るのに適していない。

特に、多くのマシンでいろいろなメールシステムが稼働しているため、はっきりと何文字までとは言いきれない。またよくないことに、トランスポートエージェントの1行のバッファの大きさを超える長さのメールを送ると、文字化けしたり、1行の後半が切れてしまったりする。

メールソフトが自動的に改行してくれる

つまり、途中のトランスポートエージェントでトラブルが起こらないようにするため、ユーザーエージェント、つまりメールソフトウェアが改行してくれるのである。なかなか気が効いていると言いたいところだが、半角スペースの箇所でも改行しないソフトウェアが多いので、日本語のソフトウェア

としてはかなり困る。自動的に改行しないと、1行がすばらしく長いメールを送ってしまう可能性があり、そのたびに管理者の方々の手をわずらわしてしまうのは申し訳ない。

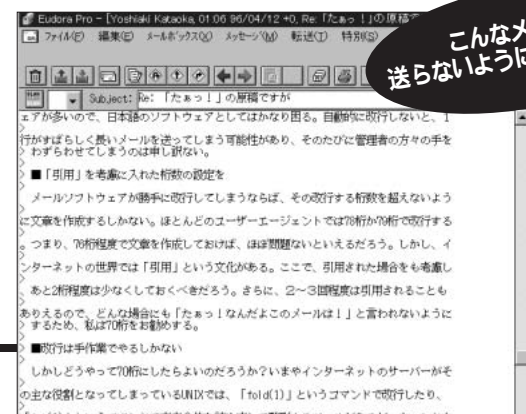
「引用」を考慮に入れた桁数の設定を

メールソフトウェアが勝手に改行してしまうならば、その改行する桁数を超えないように文章を作成するしかない。ほとんどのユーザーエージェントでは78桁か79桁で改行する。つまり、76桁程度で文章を作成しておけば、ほぼ問題ないといえるだろう。しかし、インターネットの世界では「引用」という文化がある。ここで、引用された場合をも考慮し、あと2桁程度は少なくしておくべきだろう。さらに、2~3回程度は引用されることもありえるので、どんな場合にも「たあっ!なんだよこのメールは!」と言われないようにするため、私は70桁をお勧めする。

改行は手作業でやるしかない

しかしどうやって70桁にしたらよいのだろうか? いまやインターネットのサーバーがその主な役割となってしまっているUNIXでは、「fold(1)」というコマンドで改行したり、「fmt(1)」というコマンドで文章全体を詰め直したりして整形するツールがあるが、ウィンドウズやマッキントッシュ用となると、ちょっと調べた限りでは探さなかった。メールでのやり取りが日常業務と言える、インターネットマガジン編集部やとりにあるウォッチ編集部を覗いてみたが、やはりよいツールにめぐり逢えていないのか、みな「手」で改行して字詰めを整えている。

このような作業こそ、ソフトウェアでやるべきだ。単に漢字が表示できるだけでは、優秀なユーザーエージェントとは言えない。GUI時代の統合環境なら、最低限の文書作成機能だけではあまりにもオソマツではないだろうか。今回は、メールソフトを作っているソフトウェア会社や、ローカライズしている代理店に「たあ!」だ。



こんなメールを送らないように気をつけよう



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp